

交配で豚の肉質改善

新品種の開発に注力

【静岡支局】「食べたい味の豚を提供することができます」と話すのは、富士宮市の桑原康さん(68)。有限会社TOPICSと農事組合法人富士農場サービスの代表を務める。TOPICSでは原種豚(雌)230頭と原種豚候補豚70頭、肉豚2300頭を飼育し、繁殖から肥育までの一貫経営に取り組み。富士農場サービスでは、原種豚(雄)250頭と原種豚候補豚70頭を飼養。種豚生産や精液の供給・生産・凍結を行うほか、新品種を開発している。

桑原康さん 静岡県富士宮市

10の独自ブランド豚やミニ豚を飼養する桑原さん。獣医師でもあり、養豚生産者や医療機関、教育機関な

を活用しながら、世界を舞台に活躍している。原種豚を探すため、これまで約20カ国を100回以上訪問。「産業動物としてのコストを追求した豚は、必ずしもおいしいとはいえない。飼料や飼育環境で銘柄豚にするのではなく、根本的な肉質を改善するために、原種豚の交配を見直します。交配した豚がなぜおいしかったのか、その都度情報を整理し、オリジナルの豚を造っています」と説明する。



希少な中ヨークシャーの育種改良をする桑原さん

六大原種豚(「ランドレース種」「中ヨークシャー種」「パークシャー種」「大ヨークシャー種」「デユロック種」「ハンプシャー種」)の保管や繁殖を手掛けるのは極めてまれ。粗脂肪や脂肪融点、アミノ酸量やビタミンの含有量などを分析し、一般的な三元豚

に対する優位性を比較考察する。桑原さんが提供している原種豚の精液を使った代表的な交配には、独自ブランドの「LYB豚」や「セレ豚」のほか、絶滅寸前から復活した「アグー豚」がある。

収入保険に加入 つなぎ融資を活用

2020年はコロナ禍や豚熱の発生など、経営を揺るがすリスクが大きかったという。飲食店の営業停止や、豚熱に伴う生体輸送の困難さなどにより、種豚などの出荷が減り、収入が減少した。

資金繰りを正常化するため、収入保険のつなぎ融資を活用。「まさに、私たちの業界に必要な保険設計です」と桑原さん。「静岡県は他県に比べ、農畜産物の品目が多い地域です。オランダのように面積が小さい国でも農業先進国になれることから、静岡、さらに日本の農業は、海外でさらに脚光を浴びる可能性を秘めています」と話す。

アグー復活に寄与 独自ブランド造りも